

妊娠前から育児まで切れ目なくつながる親子支援を考える「母と子のメンタルヘルスフォーラム」が、6月1、2日、岡山県医師会館(岡山市北区駅元町)で開かれる。日本産婦人科医学会が2015年から全国で開催しており、5回目。

初日は午後1時に開会し、日本産婦人科医学会の相良洋子常務理事が「日本における児童虐待の現状と産科における育児支援の可能性」をテーマに基調講演。岡山大学院の中塚幹也教授らが11年より進める「妊娠中からの気になる母子支

岡山から 母と子のメンタルヘルスフォーラム

「岡山モデル」として助産師、保健師、小児科医らがシンポジウム形式で報告するほか、養子縁組に取り組む県ベビー救済協会の足跡も紹介する。

2日目は妊産婦や母親の精神状況とリスク要因の関連に着目。精神科医の講演と、10代、不妊・不育症、DV被害などケース別のミニレクチャーで学ぶ。

参加費は医師7千円(前売り5千円)、医師以外2千円(同千円)、学生無料。問い合わせはフォーラム実行委事務局(086-250-2382)。